TAKASHIMAYA *art information*

# 髙島屋大阪店 6階 美術画廊のご案内 2026 11・12月

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては髙島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※展覧会内容は変更・中止になる場合がございます。
※作品によっては、会期前に売約済みとなる場合がございます。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

## 11月4日(水)～9日(月)

### 傘寿記念 六代 川端 近左 漆芸展

このたび川端近左先生の傘寿を記念した展覧会を開催させていただきます。伝統と歴史ある茶の湯、お道具の用の美にかなった彩り豊かな漆芸作品を制作される先生は、大阪市に生まれ、京都市立芸術大学を卒業後、父・五代に師事し、六代を襲名されました。今展覧会は蒔絵を中心に漆絵、イジ塗や錆塗など様々な技法を駆使し、常に新しいアイデアと挑戦をもとに、自身の想いに妥協せず創作された、貴重な作品を一堂に展観いたします。ぜひご高覧ください。



「紅葉流水蒔絵大棗 内銀溜」

## 11月11日(水)～16日(月)

### 彫刻になった生き物たち

木、ブロンズ、石、テラコッタなど色々な素材による個性的な表現の“彫刻になった生き物たち”をぜひご高覧ください。

〈出品予定作家〉

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 秋山 隆 | 明田 一久 | いしばしめぐみ | エサシトモコ | 榎戸 項右衛門 | 遠藤 幹彦 |
| 加藤 貴志 | 神崎 泰志 | 木村 俊也 | 新谷 一郎 | 新谷 聡子 | 神保 琢磨 |
| 杉浦 康司 | 征矢 剛 | 玉野 勢三 | 野桑 敏哉 | 橋本 和明 | 平野 千里 |
| 平松 嵩児 | 藤本 明洋 | 丸山 達也 | 横田 千明 | 吉川 かおり | ほか |

（敬称略・50音順）



平野 千里「福羊」
(20×20×高さ14cm※台座含む)

## 11月18日(水)～23日(月・祝)

### 第40回 青渕会 −標−

故・大山忠作先生によって命名された青渕会も最終回となります。成熟し、互いを尊重しつつ美の神髄を洗練させてきたことでこそ成し得た、標としての集大成をぜひご高覧ください。

〈出品予定作家〉岡 信孝　奥村 美佳　小田野 尚之　川島 睦郎　川嶋 渉
竹内 浩一　土屋 禮一　牧 進　森田 りえ子　森本 純
山田 伸
〈特別出品〉松本 勝　（敬称略・50音順）

※森本純先生の作品は抽選販売とさせていただきます。



森田 りえ子「秋華」(12号)

## 11月11日(水)～23日(月・祝) ※11月17日(火)は開催いたします。

### 福福吉祥 展

日本画・洋画の人気作家による、富士・松竹梅・干支の未など、吉祥モチーフの作品を一堂に展覧します。それぞれの作家の個性が溢れる作品の数々をぜひご高覧ください。



平良 志季
「この年をお願い」
(4号)



粂原 愛
「梅見月 伍」
(6号)

## 11月25日(水)～30日(月)

### 灰原 愛 展 空と花と人と

東京藝術大学、大学院で学び修了翌年から積極的に作品を発表、海外でも人気の灰原先生の3年ぶりの個展です。アクリル絵具で彩色された優しさあふれる色をまとう少年少女の作品はこどもの頃の素朴さや、自然の中で不思議さを感じたり夢をみた頃を思い出させます。



「花になる夢を見る」
(31×31×高さ24cm)

### 西久松 綾 展 −生命のすがた−

百貨店では初となる個展を開催します。西久松先生は様々な水中生物を飼育し、日々観察を行い、「研究成果」として作品制作をされています。生き物たちの豊かな表情や関係性が緻密かつコミカルに表現された作品をぜひご高覧ください。

「霧の隠れ里南丹河床図」(6号)



# TAKASHIMAYA Art Information 2026 11・12月

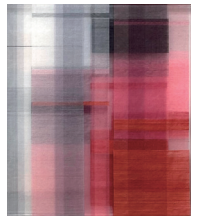
髙島屋大阪店 6階 ギャラリーNEXTのご案内

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては髙島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※展覧会内容は変更・中止になる場合がございます。
※作品によっては、会期前に売約済みとなる場合がございます。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

## 11月4日(水)▶16日(月)

※11月10日(火)は開催いたします。

### 寺川 真弓 織展 −天の虫−



寺川先生は、自ら蚕を育て、繭から糸を引き、草木で染めて繰り上げる染織作家です。自然の循環と生命の営みに寄り添いながら、糸の表情や柔らかな色彩によって風景や光の気配を詩情豊かに表現します。工芸の技術と深い精神性が融合した、温かく静謐な作品をお楽しみください。

「Light Field 1 紅」
(73×63cm)

高島屋のサステナブル・アクション TSUNAGU ACTION

## 11月18日(水)▶30日(月)

※11月24日(火)は開催いたします。

### 新宮 さやか 展



新宮先生は、1979年大阪府生まれ。2001年に大阪芸術大学芸術学部工芸学科陶芸コースを卒業後、植物の形態をした陶のオブジェを制作して注目を集める気鋭の作家です。針状に埋め尽くされた花芯、大きくゆらぐ花弁など、その蠢くような妖艶な美しさには、作者が思う自然の在るものたちへの畏敬の念がこめられています。今展では、花のオブジェ、蓮の葉や、器形に花弁を施した新たなタイプの作品も加え発表いたします。陶によるモノクロームの幻想世界をお楽しみください。

「熾の陶」(42×38×高さ27cm) 撮影:淵 忠之

## 12月2日(水)▶14日(月)

※12月8日(火)は開催いたします。

### 呉 亜沙展 −聞いてるし、聞いてない−



日々の暮らしの中で出会う風景や人との関わり、心の奥にある記憶や感情など、目には見えない存在を、柔らかな色彩で繊細に表現される呉先生の待望の関西での初個展です。人間が整備した都市空間に蔓延(はびこ)る雑草、その対比に大人とこどもを投影し、未熟と成熟の間に自身がいることの再認識の表れとなる作品をお楽しみください。

中央:「mute」(10号)
左右立体(ペア):「behind the words」(左:19×19×高さ56cm・右:18×18×高さ55cm)